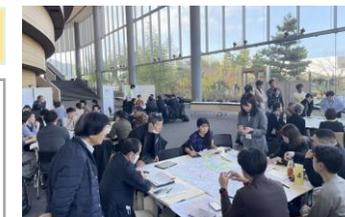


●第3回までの取組状況

- 新庁舎整備を契機としたまちづくりを進めるにあたり、市民、民間事業者、地元経済界の皆様等の幅広いご意見やアイデアを取り入れる場として「庁舎周辺まちづくり懇談会(くまもとまちづくりラボ)」を開催中。
- 第1回(R7.11.16)は、市から、まちなかの現況データや、ポテンシャル・課題などについて説明を行った後、チームに分かれ、まちなかの魅力ある地域資源等に関する意見やアイデア出しを行った。
- 第2回(R7.12.7)は、市が仮説として提示したまちなかの将来像を踏まえながら、チーム毎に、今後ラボで取り扱っていくテーマを設定した。
- 第3回(R7.12.21)は、チーム毎に、それぞれが設定したテーマについて、意見やアイデアを交わした。
- 今後も活発な意見交換や新しい発見や学びがある場となるよう取り組んでいく。



■各チームの検討テーマ(第3回開催時点)

1	<p>「まちに人を呼び込むためのアイデア、まちが連鎖的にきれいになっていくアイデア」 →人がまちに来る仕組みを考える →連鎖的にまちづくりが進む仕組みを考える</p>
2	<p>「熊本を元気にするコンテンツを考える」 →人、歴史、体験など熊本を元気にするコンテンツは何かを考える(ex 上乃裏通りなどをヒントに)</p>
3	<p>「庁舎跡地の利活用と電車通りエリアの面的な開発を考える」 →庁舎跡地の利活用と、電車通りエリアの連鎖的開発がどのようにあるべきかを考える →上記実現のために、投資を呼び込み、かつまちに投資を波及させるアイデア(熊本城を活かす、回遊の流れをつくる等)も考える</p>
4	<p>「まちの回遊と、目的地となる魅力的な場所を増やすアイデアを考える」 →2核3モールからさらに回遊を広げるためのアイデアを考える(駐車場、駐輪場、案内、エリア特性など)</p>
5	<p>「庁舎跡地利用をきっかけに、まち全体の価値を高めるアイデアを考える」 ・庁舎跡地利用をきっかけに、投資(大きな投資と小さな投資)を呼び込み、まち全体の価値を高めるアイデアを考える →新庁舎周辺、庁舎跡地及び周辺(商店街等)のまちづくり →上記、まち全体の価値を高めるエリアマネジメントと合わせ考える</p>

■第3回庁舎周辺まちづくりプラン(仮称)等検討委員会(R7.11.14)で提示した「庁舎周辺まちづくりの視点と方向性」に対する主なご意見

- ・2核3モールやにぎわいの軸だけでなく、その周辺(上乃裏通り等)にもにぎわいが波及していくと良い
- ・上乃裏通りは重要な通りであるので方針図自体に記載してはどうか。
- ・上乃裏通りは、にぎわいよりも通りの特性(落ち着いた、お洒落な雰囲気)を活かせる形がよい
- ・上通側の小さな回遊のループも考えられる
- ・電車通りは、現状はあまり人が歩いていない。市電、車だけでない通りになるとよい
- ・にぎわいの軸と都市活動の軸で歩く人が違う。混ざると面白い
- ・東西の通りは、昼間の人の流れがない。庁舎跡地を活かせないか
- ・時間帯によって動線が変わるので、時間帯別の視点も重要
- ・回遊以前に目的地が必要
- ・店がなくなる中でどう存続させるかを考えないといけない
- ・不動産の価値を上げるという地権者視点で考えることも必要
- ・地権者、事業者がビジネスができるように、先に投資しても良いと思える環境ができるとよい(まち全体で人を集めるなど)
- ・上通は居住、下通はエンタメ的な特性がある
- ・上通はマンションが増えており、まだ増える見込み。居住、生活感をどう受け止めるか?
- ・集客したいターゲットにより、アプローチ方法が異なる
- ・供用開始2040年、時間軸を見通した議論が必要